

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について  
津山市立清泉小学校

<p>教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>豊かな人間性を培い 自ら学び たくましく生きる 清泉の子どもを育成する</p> <p>よく考える子ども      助け合う子ども      やりぬく子ども</p>	<p>今年度の指導の重点</p> <p>基礎学力を充実し、自主的に取り組む学習態度を育てる。 人間関係の改善・深化を図りながら、豊かな心・健やかな体を育成する。 指導力の向上と授業改善に努め、教育力のある学校をつくる。 学校を地域に開き、信頼される学校を目指す。</p>
--	---

<p>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</p>	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国(小・中学校)</p> <p>国語Aでは、漢字の読みや文型の理解はよくできているが、基本的な言語や文法の定着が難しい。 国語Bでは、目的に応じての新聞の割付の正答率は、県平均よりかなり高い。複雑な条件提示の場合は、無解答率が県平均と比べると高い。語彙力と理由や考えを書く、短く要旨をまとめるなどの「書くこと」が課題である。 算数Aの「図形」領域は、県平均をかなり上回っているが、「数と計算」領域は、小数のひき算、分数の除法など知識・理解の面で課題がある。 算数Bでは、割合の意味理解が課題である。理由を説明する問題では、無解答率が県平均と比べて高い。 理科は、「知識」「活用」とともに県平均を上回っている。電磁石の働きや顕微鏡の操作方法などは、県平均よりかなり高い。</p> <p>県(中学校)</p> <p>○国語の活用については、昨年より正答率が上がっている。言語についての「知識・理解・技能」と「読む能力」が低い。 算数は、基礎は県平均よりやや低いが、今まで課題だった活用については県平均よりも上回っている。昨年も課題だった比・割合などの「数量分野」が引き続き課題である。 ○理科はどの観点においても県平均を上回っている。 社会はどの観点も県平均を下回っている。特に国土と地域の様子や歴史上の重要語句の説明などの「活用」においては、無解答が県平均と比べて高い。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>ほとんどの児童が、授業で自分の考えを発表する機会が与えられていると思っている。</p> <p>平日、家庭学習を3時間以上している児童の割合が高い。 休日は、家庭学習をまったくしていない児童の割合が高い。 テレビ等の視聴時間、テレビゲームや携帯電話の利用時間が4時間以上の児童の割合が高い。利用時間が多い児童が家庭での学習時間が少ないという傾向がみられる。</p> <p>普段から読書を2時間以上している児童や図書室を利用している割合が高い。 ほとんどの児童が、地域の行事に参加している。 地域や社会で起こっている問題や出来事に対する関心は高いが、毎日新聞を読んでいる児童はいない。</p> <p>自分にはよいところがあると思っていない児童の割合が高い。</p>

<p>成果と課題</p> <p>基礎学力向上のために、昨年度から復習と個別指導に力を入れて取り組んでいる。4～6年生全員対象の放課後算数教室では、週1回、2学年前からの復習をしている。朝の学習等で、国語・算数の前学年までの復習を取り入れている。その結果、基礎基本が少しずつ定着してきた。 単純な条件の場合、その条件を満たして解答する力が身につけてきている。これは、毎日の授業の中で、キーワードや条件を入れてまとめる場面を設定してきた成果だといえる。今後はさらに、複雑な条件提示の場合のまとめ方など、授業の中で場面を設定して指導していく必要がある。 記述式の問題では、無解答がみられた。教科に関わらず後半になるにつれ、無解答が多くなる傾向がみられる。これは、問題文を読むスピードが関係しているのではないかと思われる。時間を決めて、決められた時間内に文を読み取ったり、問題を解いたりすることが必要である。 語彙力が低く、自分の考えを述べたり、相手の立場や状況を感じ取って、聞いたり助言したりすることが難しい。また、問題を解くときに、聞かれていることの意味が理解できていない様子もみられる。朝の集いなどで、全校に向けて発表する場面も意図的に入れて指導してきたが、さらに授業での話し合いや学び合いを深めていきたい。それと同時に、読書活動をさらに推進し、語彙力を高めしていきたい。</p>	<p>課題に対応した改善方法</p> <p>基礎学力の向上のために、復習と個別指導を継続して行う。 毎日の授業の中で、キーワードや条件(複雑な条件)を入れてまとめる場面を設定する。 毎日の授業の中で、時間を決めて、決められた時間内に文を読み取ったり、問題を解いたりする場面を設定する。 語彙力を高めるために、授業での学び合い学習・読書活動の推進を行う。</p>
---	--

<p>取組の検証方法及び検証時期</p> <p>現学年までの漢字の読み書きを、朝の学習・宿題・授業の始まりなど繰り返し取り組む。 社会科や理科の重要語句の読み・書き・意味理解を宿題や授業の始まりなどに繰り返し取り組む。 文章を書く能力・長文読解能力の向上をはかるために、授業の中では自分の考えをノートにまとめ、ペア学習で相談する活動を随時取り入れる。高学年では、過去問題や新聞記事紹介に取り組む。 家庭学習の時間確保と内容の充実をはかるために、参観日や学級通信等を利用して「家庭学習の手引き」の活用と自主勉強の内容を提示する。</p>	<p>平成28年度津山市達成目標に対する具体的な目標(数値目標等)</p> <p>現学年までの漢字の読み・書き・・・年度末までに、90%以上の定着 社会科・理科の重要語句の読み・書き・意味理解・・・年度末までに、90%以上の定着 文章を書く能力・長文読解能力の向上・・・年度末までに、決められた時間内で文章を書いたり、長文を読み終えたりすることができるようになるまで 家庭学習の時間確保と内容の充実・・・年度末までに、学習時間(学年×10分+10分)が90%以上の定着</p>
---	--